

私たちの生活は、多くの場面で税金によって支えられています。その中でも最近注目されているのが、2025年に大阪で開催されている万国博覧会、通称「大阪・関西万博」です。大阪万博では、世界中から多くの人々が日本を訪れ、最新の技術や文化が紹介されています。しかしその大きなイベントを成功させるためには、多くの税金が使われていることを知っておく必要があります。

大阪万博の開催には、会場の建設費や運営費、警備、交通整備などに多額の資金が必要です。その多くは国や自治体の税金によってまかなわれています。税金は私たち国民が働いて納めている大切なお金です。つまり、大阪万博の成功は私たち一人一人の税金によって支えられているとも言えます。

では、なぜ税金を使ってまで万博を開くのでしょうか。万博にはたくさんのメリットがあります。まず、日本の最新技術を世界に発信する大きなチャンスになります。特に大阪万博では「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマのもと、医療、環境、A Iなどの分野で先端技術が紹介されています。これらの技術の発展は、将来私たちの生活をより良くすることにもつながります。また、多くの観光客が訪れることで、ホテルや飲食店など地元の経済が活気づき、税収が増える効果もあります。

一方で、税金の使い方として本当に万博に多額の費用を使うべきなのかという意見もあります。例えば教育や福祉、災害対策など他にも税金を使うべき分野がたくさんあります。少子高齢化が進む日本では、介護や医療にかかる費用も増えており、人々の暮らしを支えるための税金の使い道について慎重に考える必要があります。

私は大阪万博が、税金を使うだけの価値のあるイベントになってほしいと思います。そのためには、ただ派手なイベントを開くだけではなく、多くの人が未来に希望を持てる具体的な成果を残すことが重要だと考えます。例えば、会場の建物を後で学校や研究施設として活用したり、万博で紹介された技術を地方にも広げたりすることで、税金を有効に使ったと言えるようになると思います。

また、私たち国民一人一人が税金の使い道に関心を持つことも大切です。万博やオリンピックのように大きなお金が動くイベントだけでなく、身近な道路整備や公立学校にも税金が使われています。「なぜこの税金が使われるのか」「その結果何が得られるのか」を考える習慣を持つことで税金はより良い社会づくりにつながるはずです。

大阪万博は多くの期待と課題を抱えています。税金が使われる以上、国民にとって意味のあるものでなければなりません。万博が未来の社会と日本の発展につながることを願い、私も税金について正しく理解し、これから社会について考えていきたいと思います。